

蔵書点検とは？

綾部市図書館では毎年、2月に「蔵書点検」として、1週間ほど臨時休館をさせていただいております。この休館中に、館内ではどんな作業をしているのかをご紹介します。

メイン作業は「資料の点検」

期間中、最も多くの時間を費やしているのが「資料の点検」です。図書館の所蔵資料が揃っているかを確認する、「棚卸し」のような作業です。

専用の機械を使って、本を1冊ずつ読み取り、読み取ったデータと所蔵データを照らし合わせ、「行方不明の本がないか」点検します。貸出中の資料は対象外ですが、綾部市図書館内には約9万冊の蔵書があり、このすべてを、たった5人の職員総出で読み取っていきます。



専用の機械でバーコードを読み取っていきます。1冊1冊読み忘れがないように慎重に！！

狭い書庫でも体勢を変えながら読み取ります。



行方不明の本はとにかく探します。思わぬところで見つかることも多々あります。

過去のおりがみ作品をわかりやすく季節ごとに収納したりもします。



1冊1冊地道にチェック

読み取りが完了したら、データと照らし合わせて、行方不明の本がないか確認していきます。本の中に本が挟まっている、棚の間に本が落ちている等々、色々な場所にある本を、1冊1冊確認していきます。

その他にも…

書架の大幅なレイアウトの変更や、館内の案内・表示などの貼り替え、本の修理など、休館中だからこそ取り組める作業も行います。

臨時休館中は大変ご不便をおかけしますが、皆様に、より快適で便利にご利用いただける図書館とするため、なくてはならない作業です。ご理解いただきますよう、お願いいたします。

